

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 24 年 4 月 19 日 (2012.4.19)

【公表番号】特表 2003-516559 (P2003-516559A)  
 【公表日】平成 15 年 5 月 13 日 (2003.5.13)  
 【出願番号】特願 2001-543724 (P2001-543724)  
 【国際特許分類】

G 1 0 L 19/00 (2006.01)

G 1 0 L 19/02 (2006.01)

【F I】

G 1 0 L 9/18 M

G 1 0 L 7/04 G

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 24 年 2 月 27 日 (2012.2.27)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 2 3  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 2 3】

これらの等化器値によって個々の周波数領域が大きく減衰されて帯域制限が生じる。比較的高い周波数領域のエラーは、比較的低い周波数領域のエラーよりも大きな障害になるので、エラーの数があまりに多くてミューティングが必要となるまで、増加するエラーの数とともに、表されるオーディオ信号の高い周波数の帯域幅を段階的に狭くしていき、それとともに、前記狭くしたことに相応する数値の閾値でもって段階的に検出する。ここで、前記閾値はエラーの数と比較されるものである。比較的高い周波数領域および比較的低い周波数領域におけるエラーの分布は多かれ少なかれ同じであるが、高い周波数領域におけるエラーは、聴取の印象に格段に強く作用する。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】特許請求の範囲  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 デジタルオーディオデータ復号化方法であって、  
 復号化のステップとして、デジタルオーディオデータ (1) のエラー検出 (2)、逆量子化 (3) およびフィルタリングが行われる形式のデジタルオーディオデータ復号化方法において、

前記エラー検出に基づき、前記デジタルオーディオデータのエラーカウントを求め、  
 該エラーカウントとあらかじめ設定される複数の閾値とを比較し、該エラーカウントがどの閾値を上回るかに依存して等化器値を決定し、ここで、前記エラーカウントの数が増加すると共に、ある周波数領域での検出すべき帯域幅を、前記周波数領域より低い周波数領域での検出すべき帯域幅より狭くしていく、

前記等化器値を用いて、前記オーディオデータのスペクトル的な形成を逆量子化中に行うことを特徴とする

デジタルオーディオデータ復号化方法。

【請求項 2】 前記等化器値を記憶装置から呼び出す、  
 請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 前記等化器値を計算する、  
請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】 前記エラーカウントが最小の閾値を下回る場合、前記逆量子化に対して等化器値を使用しない、  
請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】 前記エラーカウントが最大の閾値を上回る場合、ミューティングを行う、  
請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】 符号化されたデジタルオーディオデータに対するエラー検出をフレーム毎または周波数領域毎に行う、  
請求項 1 に記載の方法。